



ギター弾き語りライブ

会員 藤元 達弥 (62期)

私の自作曲

弁護士始めて約2年

初年度売上400万

感謝されるときもあるけど 争うのはつらいよ～

これは、私が作詞作曲した「弁護士の歌」という曲の出だしです。他に「債務整理の歌」、「刑事弁護の歌」といった曲もあります。私は、弁護士の仕事をする中で日々感じながらも大声では言いづらい葛藤などを題材にして曲を作り、歌っています。おかげで私の初年度の売上はみんなに知られることとなりましたが（笑）。

ライブ活動

ギター弾き語りライブをするようになってから、一年半が過ぎました。厳密に言うとライブデビューしたのは大学生のころ。広島で路上でライブをして、道行く人たちに観客になってもらっていました。もともと自分で作曲したり歌ったりすることが好きだったので、司法試験の勉強に集中するために泣く泣く中断。勉強の合間に自宅で小さな音でギターを弾く程度。やっと自由を勝ち取り、司法修習後は音楽をするために、アーティストの街、高円寺に引っ越ししました。

東京での初ライブは高円寺にあるライブハウス



「ALONE」。その名のとおり、当初は友人にも知らせず、こっそりと歌っていました。曲は大学卒業以降作っていなかったのですが、新しく作る必要がありました。とは言っても、弁護士との二足の草鞋で、なかなか音楽のために費やす

時間を作れません。

「なぜ今さら音楽活動を始めるんだ」、「弁護士の仕事だけに力を集中するべきではないのか」と自問しながらも、今やらなければもうできなくなると思い、平日は通勤電車の中で携帯のメモ機能を使って歌詞を作り、休日は近所のスタジオに足繁く通ってギターを弾いてメロディーを考え、一曲ずつ作っていきました。その後、終電で帰宅した後も作曲できるように防音マンションに引っ越し、最近では、自作曲は20曲を超えました。

月に一度のライブも事前に告知するようになったところ、友人たちが観に来てくれるようになりました。ライブを通して、ライブハウスの人、ミュージシャン、観客たちと新しい出会いがあるのも楽しみの一つです。観客の中に、偶然司法修習生や弁護士会職員の方がいたときは、「こんなところで同業者に会うとは」と嬉しい驚きがありました。

悩みとこれから

私は実名でライブ告知をしていますし、ライブの動画をYouTubeにアップしています。動画は、曲名で検索すると簡単に見つけることができます。

私への依頼を検討している人が、私の名前をインターネットで検索した際にこれらのライブ告知や動画を見つけたらどう思うだろうと、不安になります。音楽に力を入れ過ぎて弁護士の仕事は適当にしている印象を持たれたり、歌詞の中の、わざと誇張したり面白くしたりしている部分から、不誠実な弁護士などと思われて依頼を敬遠されるのではないかと。

しかし、弁護士として接した社会の問題点や、そこまでいなくても弁護士の日常について、音楽という親しみやすい方法を通じて発信していくことは、意義のあることだと思いますし、何より楽しんでやっているので、ライブ活動はこれからも続けていきたいと思っています。